

「アレルギーの臨床に寄せる」 - 795 -
【矢追インパクト療法】
筋力を回復させた1症例

東京渋谷 山脇診療所

山脇 昂

ある30歳後半の男性が矢追インパクト療法を受けに来ました。サッカーで有名な高校の体育教師だった。診ると右の肩周辺と上腕の筋肉がやせ衰えている。左側筋肉群はモリッとしているのに右側僧帽筋・三角筋・大胸筋・棘上筋・棘下筋・上腕二頭筋・上腕三頭筋等肩甲挙筋群が全く痩せ衰え、前腕筋はモリッと左に劣らず普通にあり、腕はブラブラと垂れ下がり、重そうで全く挙上など不可能である。頸に縦に5~6cmの手術痕がある。某大学病院整形外科で手術操作をしたが、筋肉群は痩せたまま、何の反応変化もなかった。患者さんは誰かに聞き、考えに考えあぐねた末に矢追インパクト療法を受けに来た。私はこの様な局所的な筋肉群の衰えを直した経験は全くない。ただこの療法は糖尿病に良く効くという経験があったので、治療してみることにした。糖尿病は筋肉を持続的に現状レベル以上に燃焼させる効果があれば治る。筋肉を燃焼させれば、体は温かくなり、基礎体温も上がり、運動した時と同じ効果が得られる。糖尿病の人にインシュリンを注射してもこの様な目に見える速効は得られない。この筋肉刺激・運動効果を応用してこの患者を治療してみようと思った。この痩せ衰えた局所筋肉群上の皮膚に20~30個皮内注射を1~2週間隔でやった。最初の写真はない。治ると思っていないので撮っていない。途中3~4回やったが、筋力が回復してきたので写真を撮った。完全に筋力が回復し上腕の挙上も何の苦も無く普通に可能となった時の写真も撮った。ホームページで『山脇診療所 検索』してほしい。その後は全く来院されなくなった。全く不自由がなくなったのでしよう。

矢追インパクト療法は危険かつ効果の乏しい現行『減感作療法』を、もっと効果的かつ安全にできないかと矢追博美先生が工夫し編み出した療法で、主に子供の喘息・アレルギー性鼻炎・アトピー性皮膚炎の治療に用いられてきた。そして幾多

の難病・奇病にも用いて来た。しかし私は小児科を標榜していないし、私自身通年性アレルギー性鼻炎が酷く、花粉症の時期には更に加算され、ひどい症状に悩まされていたし、皮膚のアレルギーもひどかった。何かこういう治療法があるはずだと、ずっと以前より無意識的に脳裏に深く沈潜していたので、20年以上前矢追先生が『日本臨床内科学会』で発表したのに飛びついた。数種アレルゲンを希釈する希釈液(鳥居)を利用すると何億倍~何兆倍~無限近く迄希釈できる。そしてこの療法はアレルギーとは一見関係ない病気にも使える。難病・奇病にも使える。注射ですから患者さんに勧めると、(え 注射!!) といって怖がり、余り身体症状に悩んでいない、例えば軽い肩こり等では進んでやろうという気にはならないように思います。未だEBMも確立していませんが(私はEBMという言葉は好きではありません。FBM: Fact Based Medicineという言葉が好きです。)普及するまでには困難が伴い、中々流布しないと思います。皮内注射で沁みるように広がって行きますが、この沁みて行くという伝導が神経軸索反射であり、筋肉にも伝わり、エネルギーを消費し、抗酸化作用を起こすのです。神経軸索反射が昂じて強烈になると声門浮腫又はアナフィラキシーショックを起こすものと思います。抗酸化作用は体の錆即ち老化を防止する若返り作用を齎します。紙一重で良い方向にも悪い方向にも行くのです。アレルゲンをそれに耐えられるように更に高濃度のものを注射するというを繰り返す現行の減感作療法は危険です。ただ耐えさせ慣れさせるといっただけで、何の科学的説明も出来ていません。超微希釈して1個0.01~0.05cc皮内注射を数個~数十個するという方法は安全で優れていると思います。そしてその効果を一見アレルギーとは何の関係もない筋力を回復させるという1症例で示しました。神経軸索反射を利用して筋力をUPする方法を述べました。現在整形外科学会では骨の事ばかり考えていて、筋力をUPする方法・薬剤はリハビリテーション・ステロイドホルモンしかありません。いずれも余り効果的とはいええず、長期間必要ですし、副作用も多く、ドーピングにひっかかりもします。矢追インパクト療法を利用するとこのように、筋力を回復させるというような色々な可能性が広がります。